

健全化判断指標③

実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金・準元利償還金の標準財政規模に対する比率（3ヶ年平均）

準元利償還金・・・繰出金（一般会計等→企業会計）中、公営企業債への償還充当分、債務負担行為に基づく支出中、公債費に準ずるもの など



■算定方法

$$\text{実質公債費比率} = \frac{\text{実質的な公債費 (元利償還金・準元利償還金等)} - \text{充当特定財源額・基準財政需要額算入額}}{\text{標準財政規模 (臨時財政対策債を含む)} - \text{基準財政需要額算入額}}$$

■熊本市の実質公債費比率

H28	$\frac{39,845 \text{百万円}}{161,218 \text{百万円}}$	$-\frac{26,941 \text{百万円}}{20,358 \text{百万円}}$	=	9.16%	} 3ヶ年平均
H27	$\frac{39,711 \text{百万円}}{159,091 \text{百万円}}$	$-\frac{26,357 \text{百万円}}{19,880 \text{百万円}}$	=	9.59%	
H26	$\frac{40,199 \text{百万円}}{160,525 \text{百万円}}$	$-\frac{27,078 \text{百万円}}{20,632 \text{百万円}}$	=	9.38%	
					9.3%

早期健全化ライン（25%）を下回っている